

# インフラ維持管理・更新等の 社会課題対応システム開発プロジェクト

平成30年度予算額 **6.6億円 (10.0億円)**

## 事業の内容

### 事業目的・概要

- 道路・プラント等のインフラは、今後、建設後50年を経過するものが加速的に増加し、老朽化に対する資金と維持管理技術者の不足が大きな社会課題となっています。このため、既存インフラの状態に応じた効果的かつ効率的な維持管理・更新等が必要になります。
- 本事業では、的確にインフラの状態を把握できるモニタリング技術（センシング技術、イメージング技術、高度計測評価技術）、点検・調査を行う非破壊検査技術の開発を行います。

### 成果目標

- 平成26年度から30年度までの5年間の事業であり、本事業を通じて、インフラの維持管理・更新等における財政問題及び人材・技術不足の解決に貢献する技術を開発し、32年頃には国内重要インフラ等の約2割での活用を目指します。

### 条件（対象者、対象行為、補助率等）

#### (1) インフラの状態モニタリング技術開発



#### (2) インフラの点検・調査用非破壊検査技術開発



## 事業イメージ

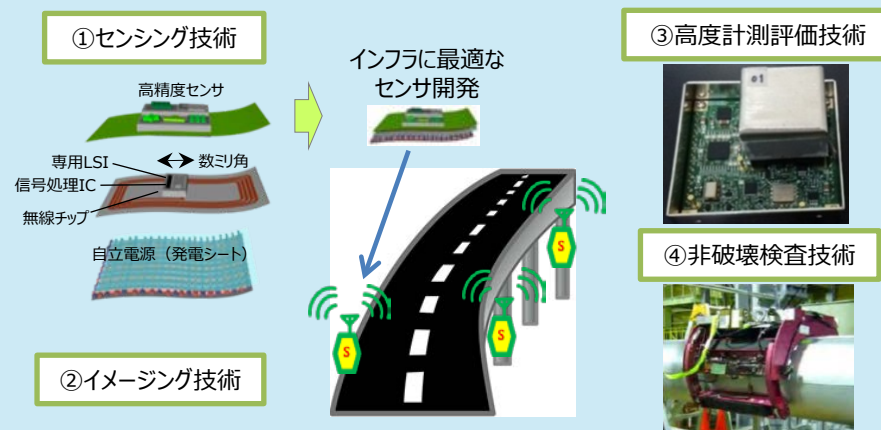
### (1) インフラの状態モニタリング技術開発

- ①センシング技術（複合的に高性能（多機能、自立電源、無線機能、高耐久）を有するセンサの開発）
- ②イメージング技術（構造物のひずみ計測、ひび割れ検出を自動検出できる画像解析技術の開発）
- ③高度計測評価技術（センサ端末間の高精度な時刻同期技術、構造物内部の状態を可視化する技術の開発）

※①の成果を用いたセンサネットワークシステムの社会実装研究を29年度より特別会計で実施

### (2) インフラの点検・調査用非破壊検査技術開発

- ④非破壊検査技術（ロボットに搭載可能な腐食を検出するための非破壊検査装置の開発）



開発するインフラ健全性診断技術により、長期にわたって安全かつ経済的にインフラを利用できる社会の実現を目指します。